

阿蘇の素晴らしさを、阿蘇の人々に知つてもらう、阿蘇の人々のための情報紙。

ASO lulu

【アソルル】

lulu(ルル)=素晴らしい魅力という意味。

ASO大陸
since 2012
vol.17

創刊号
2017

FREE



ASO Caldera volcano
Creative Green Shiretoko



ASO GeoPARK

阿蘇の明日へ

～復興とその先へ～

一年を振り返り、
前に進む人々。
それぞれの想いが、
阿蘇の明日をつくる。



阿蘇市

阿蘇の明日へ

阿蘇神社復興支援ボランティア代表
中島 昌彦



阿蘇で育った私にとって、神社は地域の方と同じように大切な場所です。お宮参りから七五三、合格祈願、3年ほど前に阿蘇神社で結婚式も挙げさせていただき、人生の節目で関わってきた場所でした。

実家を離れ、東京で映像制作の仕事をしていた私は昨年の4月頭に一時帰省していました。まさか熊本地震が起るなんて思ってもいませんでした。

地震発災直後、水を求めて阿蘇神社に行った私は、潰れしまった楼門や拝殿を目の当たりにして、改めて地震の大きさを実感しました。神職の方とお話をする機会があり、話を聞いてみると国指定重要文化財に指定されている「楼門」や「神殿」などは国からの助成の見込みがあったのですが、指定を受けていない比較的新しい「拝殿」は神社の自己負担であることをお聞きしました。そんなとき実家にいる86歳の祖母が「私は阿蘇神社の楼門をくぐって、拝殿でお参りするまで死ねない。」と言ったんです。祖母が戦後、民間で初めて阿蘇神社で結婚式を挙げたこともその時初めて知りました。家族にとってもかけがえのない場所だとうことも改めて実感しました。

復旧に10年20億と報道されていましたから、10年後祖母は96歳。指を加えて復旧を待つことはできないと感じました。

<http://aso-jinja.or.jp/>

阿蘇神社

で検索!



※阿蘇神社公式Youtubeチャンネルで
復旧工事動画配信中
(1再生につき約0.1円の募金ができます)



テレビで神社の様子を見て想いを語っている地域の方を目にし、阿蘇神社でいま何が起こっているのか?どのように復旧のロードマップを引いているのか?など聞きたいことがたくさんありました。当時公式ホームページやSNSを持っていなかった阿蘇神社に復旧の様子を直接配信してみてはどうかと提案させていただいたのが4月24日。阿蘇神社に了承いただき、公式Facebookページ制作後、初めての記事が45万人に届きました。

日本全国や海外からも声が届く中、神職の方の声を映像で配信することを思いついたのもその頃でした。佐賀に在住していた後輩の映像クリエイターに協力してもらい、神職さんや地元の方の声を撮影。Youtubeで配信することによって表示される広告が、広告費として神社に寄付される仕組みを考えました。今も復旧の様子を撮影し続けています。

地震から一年経ち、神社の様子はすっかり変わってしまいましたが、神社にとって財政的な壁はまだ立ちはだかっています。映像の反響によって少しでもいろんな方に、前向きに復旧に取り組んでいる神社の姿をこれからも伝えられればと思っています。



南阿蘇村



それでも前に進んでいく

有限会社 地獄温泉 清風荘

代表取締役
河津 誠



あの日あの時から頭の中のオフスイッチを失った。
どこかにあるだろうスイッチを探しても見つからない、
そんな感じの毎日。

発災からやがて一年を迎えた南阿蘇。その南阿蘇の地に今何が起ころうとしているか、私なりに考えて言葉にしようと思う。

仮設住宅で朝晩挨拶を交わしていても、親しい人の表情が暗くなっていくのを感じる時がある。年越しや震災一年を迎えるなど、節目と呼ばれる時を迎えるたびに、復興が進む人といまだ復旧にさえおぼつかない自分との差に触れることになる。節目を迎える前向きな気持ちになる人と、その逆に深く心を傷つけてしまう人がいるのだ。そして、月日が経つごとにその差が増していく、そう感じることが多くなった。

なぜだろう?

大津波から6年たった東北でも同じような分断が起こっていると聞く。東北の方たちも手をこまねいていたわけではないのに、取り残される人の話は絶えない。東北の経験を活かせないで南阿蘇が同じ道をたどることになれば、多くの犠牲を出した災害に学べなかったことになる。

私たちはどこを目指すべきだろう?

そんな問い合わせにも、現時点では明確な答えはない。だけど、もがいて苦しんで、それでも答えを見つけることをあきらめてはいけないのだと思う。

あの日から一年を迎えた南阿蘇村と、そこに暮らしていく者がどう考えどう行動するか、真剣に向き合う時が来ている。

我が故郷の傷をどう癒していくのかは、我々自身で決めて行かなければならない。多くの支援と長く強く注がれる暖かい視線を感じながら、勇気を振り絞って進むことに意味がある。そう信じて一日一日を刻むことが復興へ向かうエネルギーにつながると思う。

たぶん、阿蘇で暮らしてきた先人たちは、その試練を受け入れながら乗り越えてきたのだろう。そして、私達にもその血が脈々と流れている。

痛みを痛みでこらえ、それでも前に進んでいく。

待ってなんかいられないのだから。

地獄温泉 清風荘 | で検索!



古くから湯治場として栄え、二百年以上を経た今も人々に愛され続けた南阿蘇の名湯「地獄温泉」。南阿蘇村を襲った4月16日の熊本地震の発生後、地獄温泉へ通じる道3本のうち2本は土砂崩れにより、もう1本は大きな落石のため通行止め、と孤立状態となった。旅館は窓ガラスが割れて壁にはひびが入り、瓦がはげた状態。宿泊客と従業員の計50人は村有の駐車場に避難し、自衛隊のヘリにより救出された。旅館の命であるお湯は湧き続けたものの、6月下旬の大雨で旅館裏の夜峰山で土砂崩れが発生、大量の土砂が流れ込み、施設の建て替えが必要になった。それでも「自分たちの代で旅館を終わらせてはならない。」と宿の再開を目指しながら、南阿蘇村観光復興プロジェクト交流協議会としても活動、南阿蘇の復興に向け奮闘を続けている。

西原村



みんなが心から笑える日まで

一般社団法人 まけんばい河原
理事

川野 まみ



私たち家族は、西原村の自然豊かな環境に惚れ込み、3年前に移住し、念願の薪ストーブ生活のできるマイホームを手に入れました。

平成28年4月16日。私たちは築2年1ヶ月で新築の大好きなマイホームを失うことになりました。

地震前、私たちが住んでいた新興住宅地「グリーンヒル河原」には、全10世帯33人が暮らしていました。しかし、あの地震で生活は一変しました。住宅地唯一の生活用道路である私道が崩壊し、その影響で、ほとんどの新築の家は全壊…。本当に目を背けたくなる悲惨な状況でした。地震直後は、先のことなど考える余裕すらありませんでしたが、時間と共に住宅地の住民が一致団結するようになりました。そして生まれたのが『一般社団法人まけんばい河原』です。

「まけんばい河原」では、クラウドファンディングを利用して復旧費用の一部に充てるため、現在、「Yahoo!ネット募金」で寄付を募る活動をしています。

また、被災地全体の復興支援を目的として、寄付をくださった支援者には寄付額に応じて、西原村や隣接する南阿蘇村などの農産物や加工品を返礼品として送っています。支援者への返礼品を通じて、全国の皆さんに

西原村や南阿蘇村の产品的な素晴らしさを知ってもらい、それをきっかけに被災地の農家や生産者と全国の消費者が継続的につながる『出会いの場』を提供することも、活動の柱の一つに掲げています。被災地の片隅の小さな活動かもしれません、このプロジェクトを通じて、一人でも多くの方に地震後の熊本の実情を知ってもらうだけでなく、熊本やそこで生み出される商品の魅力、素晴らしさを発信できればと思います。

熊本地震から1年が経ちましたが、住宅地は地震直後のままで。しかし、確かなことは、応援してくださる皆様のおかげで挫けることなく、少しずつ、少しずつ、復興に向けて歩み続けているということです。

この約1年間、応援してくださっている全国の皆様、ご縁を頂いた皆様、住宅地の住民一同、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。これからも、私たち『一般社団法人まけんばい河原』にできることを全力でさせて頂きます。阿蘇が、熊本が、もとの姿以上になる日まで。そして、被災地の皆様が心から笑える日まで…。

<http://www.makenbai.or.jp/>



南小国町

繋がりに感謝

黒川温泉観光旅館協同組合 理事長

御客屋旅館 代表取締役

北里 有紀



早いものであれから一年。本当にあつという間だったなど昨年からの日々を振り返っております。

昨年4月の熊本地震後、風評を中々払拭できずにお客様に来て頂けない日々が続いておりました。しかしながら、どんな時でも前向きに、地域一丸となって様々な取組みを考え、情報発信に努めて参りました。7月より「九州ふっこう割」旅行券事業など、観光面での復興支援も始まり、風評払拭の大きな後押しを頂きました。

また、昨年は黒川温泉の看板商品でもございます「入湯手形」が発売開始から30年を迎える節目の年でもございました。年のはじめより黒川温泉を挙げて30周年事業として年間の計画を立ておりましたが、地震発生により事業を断念せざるを得ない状況もあると覚悟致しました。しかしながら、困難な状況であるからこそ元気な情報をお届けしなければならない、と皆で確認し合い30周年事業はもとより視察事業の受け入れや、やまなみハイウェイ沿線活性化事業など、様々な方々のお支えをいただき活動を続けることができました。



改めて、地震後の状況を思い返してみると、本当に沢山の励ましや心配のお声を頂戴致しました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。そして、今回の出来事では多くの気付きがありました。普段何気なくあたりまえにあった日常が、あたりまえではなかったのだと痛感致しました。そして何よりも、宿屋という生業は本当に沢山の方々に支えられているという事実。ご利用いただくお客様をはじめ、美味しいお野菜をつくって頂く農家さん、美しい景観を維持してくださる林業家の方々、必要な物をお届けくださる業者の皆さま、修繕や設備メンテナンスをお願いする建設業者の方々、他にも沢山の繋がりや支えで私どもは存在しています。

まだまだ時間のかかるふるさと阿蘇の復興。様々な繋がりに感謝しながら、私どもに出来る最大限の恩返しを考え、行動し続けたいと思っております。

◆黒川温泉観光旅館協同組合 インフォメーションセンター
〒869-2402 熊本県阿蘇郡南小国町黒川さくら通り
TEL.0967-44-0076 / FAX.0967-44-0819

□ <http://www.kurokawaonsen.or.jp/>

山都町

思いやりに 出逢えた1年

そよ風パーク
有限会社 そよ風遊学協会 フロント係

飯星 優菜(いいほし ゆうな)
21才 / 勤務年数1年8か月



未曾有の熊本地震から数日後、私の勤めるホテルからフッと阿蘇五岳を眺めると、妙な違和感を感じました。よく見ると普段見ていた根子岳のてっぺんの尖がありが何か違っているのです。写真にある山と比べると、根子岳の象徴である尖がありが少し崩れていることが解りこの地震の凄まじさを改めて感じました。

4月14日・16日と立て続けに大地震が発生し、ホテルでは予約キャンセルの電話と、お客様からのお問合せや私共スタッフをお気遣い頂く県外のお客様のお電話に対応するのが精一杯でした。また南阿蘇に通じる目の前の国道は、観光バスや行楽の車が消え、自衛隊、警察、消防等全国から派遣された救援部隊の車両の列で渋滞が起こる程でした。そしてホテルはテレビ局などの報道スタッフや、支援派遣された各都道府県の職員の皆様で埋め尽くされました。被災地では停電や断水が続き、当ホテルも浴場を被災者の方々に開放すると、南阿蘇のお客様は勿論の事、SNS等でご覧になった遠くは嘉島や益城、御船町からも

入浴に来られ毎日順番待ちのお客様で長い列ができていました。ひっきりなしに続く余震の中避難所から通うスタッフ達も一緒に、おにぎりの炊き出しや飲料水の提供、一変したホテルの業務にと災害に負けない気持ちで頑張り続けました。

今では俵山トンネルの復旧に伴いお客様も山を越えて利用して頂けるようになりましたし、支援派遣でご利用いただいた中にも、ご家族でホテルに宿泊して頂いたり、お風呂でお世話になったとお返しにお食事においてなったりと、この震災が御縁でホテルとの絆が生まれたお客様もいらっしゃいます。

今年2月には被災した当施設の修繕も終わり、来る春にはホテル内の1000本の桜も咲き誇るだろうと思います。また、夏にはBBQやブルーベリー狩りも楽しんで頂けます。「思いやり、優しさ」それに「耐える心」に感動したこの一年、私達も「思いやり、優しさ」お客様をお迎えし、少し大人になった私達若者を見て頂き、ご支援を頂いた皆様のご期待に添う様、復興に頑張りたいと思います。

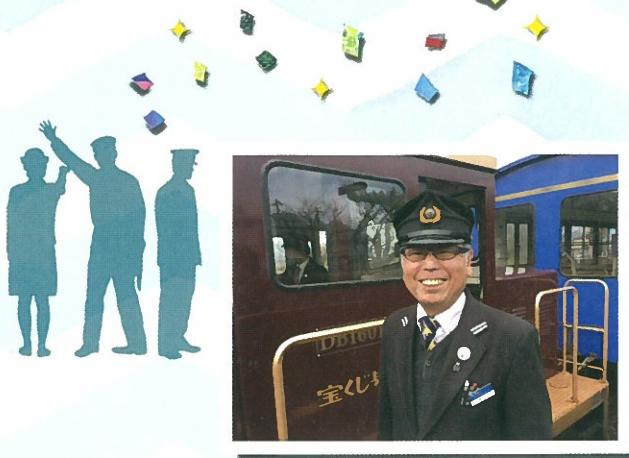
◆そよ風パーク 有限会社 そよ風遊学協会
上益城郡山都町今297番地 / TEL.0967-83-0880
□ <http://www.s-kaze.jp/>



高森町

笑顔を乗せ、笑顔で走り続けたい
南阿蘇鉄道

南阿蘇鉄道
内川 聖司



熊本地震から1年を迎えました。南阿蘇鉄道でも、地震により線路や橋梁が大きな被害を受け、昨年7月31日に高森駅～中松駅までの7.1キロ区間での部分運転を再開しましたが、中松駅～立野駅までの10.6キロの区間については運休、全線復旧には至っていません。南阿蘇鉄道は、地域の皆さんの通学、通勤、買い物など、生活の一部としての大事な鉄道であり、その財産、宝を絶対になくしてはならないと、職員一同、1日も早い全線復旧に向けて日々業務に励んでいます。

南阿蘇鉄道の素晴らしいは、何といっても雄大な阿蘇の自然の中を走る車窓からの風景とその風景にマッチしたかわいい車両。トロッコ列車に乗っていると、のどかでのんびりとした風景が広がり、まるで時が止まった様に感じることができます。東京から来られたお客さまは、「この風景の空間の中に居るのは最高の幸せ。」「乗っておられるだけで最高! こういう素晴らしい所で仕事ができるあなたは本当に幸せですね!」とうれしい言葉をいただきました。まさにその通りだといつも思っています。

朝夕の通勤、通学時には混み合う事もあり、とりわけ高校生が多い時はたくさんの笑顔で賑わっていました。地震後の運休により、それにぎやかな笑顔が見れなくなり、災害とはいえ、3年間の通学を支えられなかつたことが残念でなりませんでした。

◆南阿蘇鉄道

〒869-1602 熊本県阿蘇郡高森町大字高森1537-2

TEL.0967-62-0058

<http://www.mt-torokko.com/>

しかし、その高校生の笑顔を久しぶりに見る事ができたのが、2月14日高森高校を卒業する3年生を乗せた、南阿蘇鉄道恒例の卒業列車です。卒業を前に通学のお礼とお祝いを兼ね、仲間や先生とふる里阿蘇の思い出を残してほしいという思いを込め、毎年運行している大切な行事です。車内には、「久しぶりに列車に乗って、楽しかった。」笑い合うと高校生たちの笑顔で溢れ、改めて阿蘇の山々や景色を車窓からの眺めを楽しんでもらえているようで嬉しく思いました。

南阿蘇鉄道は、多くの鉄道ファンのみならず、全国の皆さんからも熱い応援や支援をいただきました。まだまだ復興には、時間が必要だと思いますが、今こそ、このすばらしい熊本の阿蘇の魅力をもっともっと発信し、多くの皆さんに知ってほしいと考えています。

南阿蘇には、南阿蘇鉄道の列車が良く似合います。「ありがとう、楽しかった、又来ます。」と言って降りられるお客様の笑顔に笑顔で応えていける様、安全運転、楽しい案内を心がけ笑顔で走り続けたい。地域の皆さんの鉄道を利用した当り前の日常生活が戻れる様、1日も早い全線復旧に向け、皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。

ピンチをチャンスにかえる時だと思います。幸せな、環境で仕事が出来る事を誇りに笑顔を乗せ、笑顔で走り続けたい。



小国町



復興と感謝を込めた鯉のぼり

杖立温泉観光協会 会長
葉隱館 代表
権藤 芳春



突然の地震から早1年。当時、杖立温泉では毎年恒例の鯉のぼり祭りが始まったばかりで、連休に向けてイベント等の準備に取り掛かっていましたが、地震により水源地が崩壊し断水、また国道212号線大分県側崩落により通行止めとなり、お客様を泊めることが出来なくなり温泉街にとっては大きな痛手となりました。

そんな杖立温泉の春の風物詩、3500匹の鯉のぼりが杖立川上空を元気に泳ぐ「日本一の鯉のぼり祭り」も、震災に対し全国各地から支援や励ましのお言葉を頂き、今年も開催することができました。復興事業の一環として全国の皆様に感謝の意を表すとともに、熊本県下すべての市町村の名前と復興へのメッセージを入れた鯉のぼりを揚げ「がんばるバイ日本一の鯉のぼり祭り杖立温泉」として、4月1日から5月6日まで開催しています。夜間にはライトアップも行われ、温泉街の大空を幻想的に舞う鯉のぼりは壮大で必見です。

期間中は、杖立温泉独特の蒸気を使った蒸し場料理、温泉朝定食を提供するみちくさ朝市(2カ月に1回)や5月の

連休には小国のキャラクター「おぐたん」をデザインした子供たちが遊ぶトランポリンふわふわランドなどを新調し復興への足掛かりとしています。また、不定期ではありますが九州各地から杖立温泉復興のため杖立温泉大好きという方々が好意的にお店を開いて頂き、御湯の駅「足湯」を利用し、足湯に入りながらかき氷やパン、コーヒー、原木椎茸炭火焼など楽しむ「足湯」カフェなども開かれ、これまでになかった様々なアイデアで賑わいをみせています。

最近では、新たな取り組みとして温泉熱を利用した自然エネルギーバイナリー発電所事業や熱利用事業、温泉ハウス栽培でバナナ、コーヒー、ドラゴンフルーツなどの栽培計画も進められ、地域活性化を目指しています。

地震から1年、一人一人が大変な経験をしましたが、地元の人はもちろん、若者や杖立を応援してくださる人々の想いが、街に活気を呼び戻し、長い歴史と伝統を受け継ぎながら、魅力ある「杖立温泉」として前に進んでいるのを実感しています。



◆杖立温泉観光協会

〒869-2503 熊本県阿蘇郡小国町下城
TEL.0967-48-0206 / FAX.0967-48-0644
<http://tsuetate-onsen.com/>

産山村

村の魅力を受け継ぐために

CoraBoku
高橋 努



熊本地震から数週間後、産山村に住む有志(若者?)5人が集まりました。

「こんな時だからこそ自分たちで何かやろう。村を盛り上げよう。」

人口1600人の小さな村で、農業と、美しい景観を守り続けていくために、産山自慢の米や野菜、特産品に注目し商品開発やPRをはじめようと考え話し合いました。

その足掛かりとして、酒粕の商品開発に取り組みました。

私達の親父は産山村で、水、土、米にこだわり完全無農薬有機栽培鯉農法で純米吟醸産山村の日本酒の酒米「五百万石」を20年前から作っています。その息子たちがこの日本酒からとれる酒粕を商品化しようと CoraBoku(こらぼく)を立ち上げました。こらぼくとは産山弁で、「これはヤバイ!」って意味です。これはヤバイって言ってもらえるような物を作ろうと失敗を繰り返しながら前進しています。現在は酒粕をそのまま真空パックしたものと、旨みをそのまま残した低温乾燥のパウダーの酒粕を作りました。甘酒として飲んでみるとヤバイくらいにうまいんです。各種料理の隠し味に産山村の酒粕を使うと、味に深みが増しているのに、どこかやさしい味に仕上がります。

親父たちもいつかは酒米づくりが困難になってくると思います。だからこそ二代目として親父たちのノウハウを学びこの産山村の酒米づくり酒粕づくりを柱に産山村の魅力を広めていきたいと思っています。



◆〒869-2703 熊本県阿蘇郡産山村山鹿2582 coraboku@gmail.com

CoraBoku

で検索!

「阿蘇をリ・デザインする」 ～新たな阿蘇のまちへ～



公益財団法人
阿蘇地域振興デザインセンター 理事長
北里 耕亮

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターでは、来年度から33年度までの取り組みである「5か年計画」を策定しました。このなかで公益財団としての3つの柱である①地域の元気再生による地域力の向上②豊かな自然による世界ブランドの確立③広域連携による競争力のある観光地づくりを基本に、熊本地震や市町村ヒアリングなどにより、明確となった地域の課題(復興支援・人材育成・人口減少社会への対応など)を背景しながら、「ずっと住み続けることが出来る阿蘇づくり」を目標に、選択と集中を図りながら「リ・デザイン」(新たなる阿蘇のまちへ)に取り組みます。



- ① 新規…地域の元気再生による地域力の向上や新たな観光資源の構築
(復興支援・的確な情報発信・阿蘇回帰運動・人材の育成・
新たな観光資源構築)
- ② 継続…豊かな自然による世界ブランドの確立(草原再生・ジオパークなど)
広域連携による競争力のある観光地づくり(観光圏事業など)

阿蘇地域振興デザインセンターの移転について

平成28年11月に、(公財)阿蘇地域振興デザインセンターは移転しました。新しい事務所は国道57号線沿い、仙酔峡入口付近のファミリーマートの向かい側です。



【新しい住所】

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607番地1
TEL／0967-22-4801 FAX／0967-22-4802



「復興から復光へ」

熊本地震から早くも1年。各地で創造的復興への歩みが着実に始まっています。デザインセンターも、東京や福岡などの大都市での「風評被害」の払拭を始めとしたプロモーション活動や、阿蘇地域元気再生支援事業などに邁進した1年でもありました。

平成29年度においては、各種産業を支える担い手の不足が懸念されることから、これまで構築してきた「阿蘇ブランド」を活かした「阿蘇回帰運動」(移住・定住)にも、新たに取り組んで参ります。

ところで、昨年末の事務所移転により「立ち寄りやすいデザインセンター」となりましたことから、ぜひ皆様にお気軽にお越し頂き「復興から復光へ」に向けて、英知や情報の教示をお願い申し上げます。



(公財)阿蘇地域振興デザインセンター
事務局長
江藤 訓重